



1 沿革と地域

(1) 沿革

- 1873 (明治 6) 第二大学区浜松県管下第十三番中学区四十二番小学西方学校として開校
- 1881 (明治 14) 静岡県遠江国城東郡第一学区村立小学西方学校と改称
- 1889 (明治 22) 静岡県城東郡西方村立西方尋常小学校と改める
- 1946 (昭和 21) 六, 三, 三制発足
- 1947 (昭和 22) 堀之内町立堀之内小学校と改称
- 1954 (昭和 29) 菊川町立北小学校と改称
- 1955 (昭和 30) 菊川町立堀之内小学校と改称
- 1957 (昭和 32) 学校給食開始
- 1961 (昭和 36) 教育用テレビ, グランドピアノ購入
- 1963 (昭和 38) 校歌制定
- 1964 (昭和 39) 大小プール建設
- 1968 (昭和 43) スプリングクラー完成
- 1971 (昭和 46) 体育館落成式
- 1973 (昭和 48) 子どもの森植樹
- 1974 (昭和 49) 水車小屋完成
- 1979 (昭和 54) 鉄筋コンクリート構造 4 階建て校舎完成
- 1989 (平成元) 文部省道徳教育推進校に 3 年間の指定
- 1994 (平成 6) 県社会福祉協議会より福祉教育実践校に 3 年間の指定
- 1997 (平成 9) 富士屋さん跡地が校地となり鉄棒、砂場を移転
- 2000 (平成 12) 4 階視聴覚室にコンピュータを 21 台設置
- 2002 (平成 14) 学校 5 日制完全実施
- 2015 (平成 27) 蛍雪の精神を児童の身近なものにするためにキャラクター「蛍雪くん」作成
- 2020 (令和 2) 3 月に新型コロナウイルス感染拡大のため全国一斉休校 (3/3~3/19)
再び 4 月から新型コロナウイルス感染拡大のため全国一斉休校 (4/7~5/24)
- 2021 (令和 3) 国の GIGA スクール構想により一人一台のタブレットが児童に貸与される (3~6 年生。1・2 年生は学校保管)
- 2023 (令和 5) 創立 150 周年「誕生祭」(11 月 10 日、児童、保護者、教職員、地域の方々の約 450 名参加)
- 2024 (令和 6) 大プール改修工事

2025(令和7) 国の GIGA スクール構想を受け、1～6年生全員に個人も
ちのタブレットが貸与された。

(2) 地域

菊川市の北部に位置し、JR線北側唯一の学校となる。郷土意識が強く、
町部コミ協の「ふるさと学校(通学区合宿)」は平成16年に始まった。地域に
おける子どもたちの「受け皿」探しが話題になったのが平成14年であるか
ら、その取組は早かった。

西方地区も平成28年から通学区合宿を始めている。名称「たきのやのみ
なみの学校」は、郷土意識の表れである。

注：『たきのやのみなみ』堀小応援歌の歌い出しは、「♪滝の谷南、高田の
北に、鍛えに鍛えしその鉄脚を、はやてと走り～」となっている。

注：『通学区合宿』町部地区の通学区合宿は、諸事情により休止状態。西方
地区の合宿は、コロナの影響で令和2年度から実施を見送っている。

2 実態(強みと弱み)

(1) 児童の実態

<強み>

- ・素直で正直な気持ちで生きている子たちが多い。素直さ。素直な子が多い。
- ・優しい、人なつっこい。真面目さ。元気いっぱい、学校が大好き。
- ・明るくて屈託がない子や、言われたことには素直に頑張ってみようとする子が多い
- ・良いこととされたことを自分に素直に真似をするところ。
- ・話の聞き方が上手な子たちが多い(「あいず」が浸透している)
- ・明るいあいさつができる。(高学年の子の中には、廊下で通りすがりに軽く会釈しながら「こんにちは。」と自然なあいさつできる子がいます。)
- ・個性豊か、一生懸命。創造力が豊かである
- ・先生の言うことを聞く子が多い。
- ・やることがわかれば(理解できれば)自分から動くことができる。
- ・好きなもの、興味のあることに向けるパワー、エネルギー。
- ・何かを頑張るとなったとき(主に行事)に全員で同じ向きを向いて熱量をもってがんばれるところ。グループ活動が好き。
- ・教員からの発信に対して一生懸命頑張れること。
- ・周りを心配して、助け合いながら授業や活動に取り組めるところ。
- ・友だちのことを心配したり、手を貸してあげたりする子が多い。助け合いができる。
- ・困っている友達を助けられる優しさのあるところ。
- ・任されたことはきちんとできる。
- ・授業に前向きに取り組める。

- ・質問に対してきちんと答えられる(説明できる)、自分の気持ちを伝えられる。

<弱み>

- ・自信がなく、保守的な子たちが多い(手伝いをしない、新しい取り組みに否定的)
- ・自信をもって取り組めないところ。(発言、主体性等)
- ・自信がない(△やってみよう)、主体性(△受動的⇔素直さ)
- ・他人任せで自分から行動する子が少ない
- ・自分で考えて行動すること。(自主性、主体性)
- ・明確な指示には対応できるし、一生懸命やるが「自分で考えて行動」が苦手な印象。
- ・自分一人でも正しいと思うことは最後までやり通そうとする「芯の強さ」(自己実現を渴望する強い気持ち)
- ・互いに高め合おうとするための「厳しさ」(自分にも、相手にも、よりよく生きようと求めること)
- ・忍耐力、我慢したり耐えたりする力
- ・苦手なことに向かっていく気持ちが弱い。
- ・気分がむらがある。
- ・言葉遣い、表現する力、適切な表現(態度)や言い方
- ・恥ずかしがり屋で思いを表出させることが苦手な子どもがいる。
- ・自分の気持ちや思いを言葉で伝えられない場面がある。
- ・自分を表現すること。
- ・あいさつを自分からすること。
- ・聞くこと。人の話を最後まで聞くこと。堀小10の力の1「聴く」をあらためて意識して伸ばしていけたらと思う。
- ・掃除を時間いっぱい取り組めるようにしたい。
- ・時間を見て、余裕をもって行動するところ。
- ・時間の意識。しゃべる時と聞く時のスイッチの切り替え。
- ・授業と休み時間の切り替え。
- ・学力を付けたい。
- ・自由奔放

(2) 運営面の実態(職員、保護者、地域)

<強み>

○職員

- ・児童、保護者を大事にし、信念を持って教育している。責任感がある。
- ・困っている人を見つけるとすぐに手を差し伸べる雰囲気がある。

○保護者

- ・堀小出身の方が多く、協力的な方が多い。

- ・堀小の教育に協力的で、学校を信頼している。
- ・子どもへの関心が高い親が多い。そのぶん、良い意味で厳しい目をもっている。
- ・子どもを大切にしている。子どもをよく見ていること。子どもが言ったことによく耳を傾けているところ。
- ・堀小に対して「おらが学校」という意識(誇り)が高いと感じる。(堀小の教育活動に対して、協力的な保護者が多い)

○地域

- ・昔の伝統を引き継いでいる地区であり、市の中心部の地域であるという誇りがある。
- ・地域の人たちも堀小に誇りを持っている人が多いと感じる。
- ・地域を大切に思う気持ちがある人が多くいる。

<弱み>

○職員

- ・職員数に余裕がなく、出張者が複数いた場合、学級支援など人手が足りなくなる。
- ・堀小の子に限らず、年々子どもに求めるゴールが低くなってきていると感じる。(給食の残食、ドリル等への取組、宿題の量、クラス遊びなど、譲れないと思っていた部分がどんどん削られてきたような感覚がある。)

○保護者

- ・子どもを大切にする余り、手をかしすぎていると感じることがある。
- ・本校だけでなく、今の時代の流れかも知れないが、雨の日・暑い日の送り迎えが多かったり、忘れ物をすぐに届けてやったりするなど、忍耐強さや我慢強さを以前より求めていない感じがする。

○地域

- ・昔からの伝統があるために、新しい形への変化が難しい。
- ・昔からの菊川の人たちに、新しいところから来た人たちが入って、以前より様々な価値観が混在しているように感じる。

3 学校教育目標(学校としてどのような教育をしていくか)

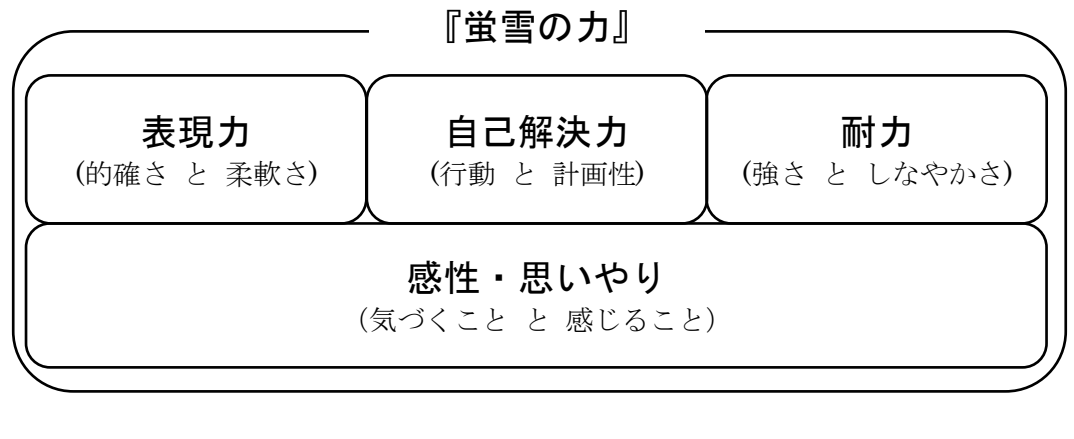
【学校教育目標】

「蛍」の子(ひかり かがやく子)

<具体的な3つの姿>

- 1 自分の良さを自覚し、生活の中で良さを発揮している姿 【良さの追求と発揮】
- 2 周りの人の良さや思いを大事にし、あたたかな心で他者や集団のために動いている姿 【他者貢献】
- 3 より良い自分や集団をめざし、目的や目標の達成に向けて、当事者意識をもって、自ら判断し、粘り強く、積極的に努力したり協働したりしている姿【努力・向上と協働】

<「ひかり かがやく子」に必要な4つの資質=育てたい4つの資質>



次の(1)(2)(3)のことから、本校の教育で育てていく児童の姿を上記3つとし、それらの姿を「『蛍』の子(ひかり かがやく子)」という象徴的な言葉で表し、学校教育目標とした。

また、「『蛍』の子(ひかり かがやく子)」を育むために必要な資質を「表現力」「自己解決力」「耐力」「感性・思いやり」の4つと考え、それらを「蛍雪の力」と呼び、授業や行事、係活動など学校生活の様々な場面において、育成を目指していく。

(1) 児童・地域の実態から

本校の児童は、「2実態」で述べたように、素直で優しい子が多い。昔から本地区に住んでいる家庭には3世代家族も多く、とても大事に育てられていることが影響していると思われる。また、地域の人たちも子供に積極的に関わってくれるため、人なつっこく、屈託のない子が多い。

一方で、周りの大人が大事に手助けしてくれるためか、「明確な指示には対応できるし、一生懸命やるが、自分で考えて行動が苦手である」や「苦手

なことに向かっていく気持ちが弱く、自分一人でも正しいと思うことは最後までやり通そうとする『芯の強さ』がない」など受け身の姿勢や粘り強さが課題と言える。

このような特徴を持つ本校児童が社会の創り手として成長していくためには、「2(1)」の<弱み>の克服がとても大事であると考え。周りの大人や仲間からの指示を待つのではなく、「よりよい自分やよりよい集団のイメージ(目標や願い)」をまずは自分でしっかりと持てること、そしてその実現に向けて、当事者意識をもって、自分には何ができるのか、何をすべきなのかを自己判断し、地道に、積極的に努力できることを教育の柱として児童を育てていく必要がある。

また、複雑な社会変化に対して乗り越えたり柔軟に対応したりするためには、本校児童の特徴である「優しさ」や「人なつっこさ」は大きな「強み」となる。1人では乗り越えられないことも、周りの人とよりよい関係を築きながら、協働して乗り越えていける。人との良好な関係を築けることは、協働のための大事な資質だと言える。この「強み」を生かして、指導要領でも述べられている「協働する力」を一層育んでいきたいと考える。

(2) 予想される未来社会と国・県の目指す人間像、市の理念との関連から

現指導要領は、子供たちが生きる2030年以降の社会を予測し、その社会で生きていくために必要な資質・能力についてまとめられている。それによると、子供たちが生きる未来社会は、国際的にも、国内的にも混沌とした非常に不透明な社会(予測不能な社会)であると言われている。そうした社会においては、自己の目標を見失ったり自己管理ができなかったりすることで主体性の喪失に陥りやすい。また、人との関わり合いに煩わしさを感じたり、他人と比較して自信を失ったりすることで、他者とのコミュニケーションを避けがちにもなり、さらには、自ら課題を発見し、必要な情報を探求し、解決していくという前向きな生き方も失われがちにもなる。

未来の予測不可能な社会を力強く、たくましく生き抜いていくためには、自分の良さを理解して一人一人が自立し、それを積極的に発揮しようとする精神を持っていることがとても大事となる。自分の良さを理解し、自分を愛せる人は、自分の周りの社会やこれからの未来が不安定であっても、自分の居場所や立ち位置をしっかりと見つけ、目標を作り出し、力強く自己を伸ばしていける。また、自分の利益だけを求めるのではなく、互いの個性や生き方を尊重し、あたたかな心で人のために尽くそうという精神を持っている人は、周りの人たちと良い人間関係を作り上げ、より良い社会づくり、環境づくりに貢献していける。一人では解決できないことや一人では乗り越えられない課題や状況に出会っても、自分の力を信じ、知恵を出し、周りの人と協働して乗り越えていくことができる。

令和3年1月26日の中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』では、次のような言葉がある。

- 人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。
- また、学習指導要領の改訂に関する「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28（2016）年 12 月 21 日中央教育審議会。以下「平成 28 年答申」という。）においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきていることが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっている。
- このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。
- ＜下線：後藤付＞

これらのことから、「自分の良さや可能性を自覚し、それを発揮できること」「よりよい自分や集団を目指し、目的や目標の達成に向けて、自ら判断し、地道に粘り強く、積極的に努力したり協働したりできること」は、予測不可能な未来社会を生き抜くための大事な資質と言える。さらに、人と協働して社会変化を乗り越えられるようになるためには、「周りの人の良さや思いを大事にし、あたたかな心で他者や集団のために尽力したりできること」でよりよい人間関係を築けることがまずは大事になると考える。

また、令和5年3月8日中央教育審議会答申「次期教育振興基本計画について」では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2つをコンセプトとして掲げ、次のように説明されている。

- (1) 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
- グローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の格差などの社会課題やロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化の中で、一人一人のウェルビーイングを実現していくためには、この社会を持続的に発展させていかなければならない。特に我が国においては少子化・人口減少が著しく、将来にわたって財政や社会保障などの社会制度を持続可能なものとし、現在の経済水準を維持しつつ、活力あふれる社会を実現していくためには、一人一人の生産性向上

と多様な人材の社会参画を促進する必要がある。また、社会課題の解決と経済成長を結び付けて新たなイノベーションにつながる取組を推進することが求められる。Society 5.0 においてこれらを実現していくために不可欠なのは「人」の力であり、「人への投資」を通じて社会の持続的な発展を生み出す人材を育成していかなければならない。

○ こうした社会の実現に向けては、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要である。 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められる。

○ Society 5.0 においては、「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「チームワーク」などの資質・能力を備えた人材が期待されている。こうした要請も踏まえ、個々人が自立して自らの個性・能力を伸長するとともに、多様な価値観に基づいて地球規模課題の解決等をけん引する人材を育成していくことも重要である。

(2) 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

○ ウェルビーイングの国際的な比較調査においては、自尊感情や自己効力感が高いことが人生の幸福をもたらすとの考え方が強調されており、これは個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング（獲得的要素）を重視する欧米的な文化的価値観に基づく側面がある。 同調査によると日本を含むアジアの文化圏の子供や成人のウェルビーイングは低いとの傾向が報告されることがあるが、我が国においては利他性、協働性、社会貢献意識など、人とのつながり・関係性に基づく要素（協調的要素）が人々のウェルビーイングにとって重要な意味を有している。 このため、我が国においては、ウェルビーイングの獲得的要素と協調的要素を調和的・一体的に育む日本発のウェルビーイングの実現を目指すことが求められる。こうした「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づくウェルビーイングの考え方は世界的にも取り入れられつつあり、我が国の特徴や良さを生かすものとして国際的に発信していくことも重要である。

<下線：後藤付>

これらのことから、「自分の良さの認識」「協働」「自尊感情や自己効力感」「社会貢献意識（他者貢献意識）」などを育むことが一層重要視されたことが分かる。「本校で目指す児童像（3つの姿）」や「育てたい4つの資質」は、子供たちが生きる社会や時代において幸福な人生を送るためにも大切だと言える。

令和7年9月25日、中央教育審議会教育課程企画特別部会から報告された「論点整理」には、次のような言葉がある。

○次期学習指導要領に向けた基本的な考え方①

1 改定論議を貫く三つの方向性

<中略>

・②**多様性の包摂**は、多様な個性や特性、背景を有する子供が多くなっている実態に向き合うとともに、こうした多様性を個人及び社会の力に変える観点から、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育の実現を目指すものであり、第一の方向性と両立させることが不可欠な第二の方向性である。

2 自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手育成

・諮問で「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、民主的かつ公正な社会の基盤としての学校を機能させる必要性が指摘された背景には社会全体の構造変化がある。生成AIなどデジタル技術の発展が相まって、皆と同じことができることも重要だが、それ以上に独自の発想や視点に価値が置かれるようになってきている。現在の学校教育の中で主体的に学びに向き合えていない子供も多くなっている。少子化に伴う入試による動機付けの変化、学習時間の減少等も踏まえ、学びの動機付けをアップデートする必要もある。予測困難な時代に、労働市場の流動化や就業期間の長期化、マルチステージの人生モデルへの転換が進む中、しなやかに「**自らの人生を舵取りできる力**」が不可欠となりつつある。また、内なる国際化で、人口の多様性が増すとともに、SNSや生成AIの負の側面の影響もあり社会分断の可能性等も指摘される中、デジタル時代に主体的に社会参画する「民主的な社会の創り手」の育成も喫緊の課題である。こうした考え方は、教育基本法や学校教育法等の趣旨を踏まえたものである。

☑このため、全ての幼児児童生徒に育むべき資質・能力育成の具体化・深化と並行して一人一人の「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組と、当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組を同時に進め、これらが有機的に関わり合い高まっていく教育課程に変革していく必要がある。

☑こうした問題意識の下、本部会では、学びに向かう力、人間性等の概念の再整理、総合的な学習・探究の時間を中心とした質の高い探究的な学びの実現、デジタル化の負の側面への対応を含む情報活用能力の抜本的向上、特別活動を中心として主体的な社会参画に関わる教育の改善、個性・特性に応じた学びの充実に繋がる裁量的な時間の創設等を主な具体策として議論してきた。<攻略 下線:後藤>

本校の学校教育目標の「具体的な3つの姿」にある「良さ」とは、この「論点整理」で述べられている「特性や個性」の捉え方と同じであり、新しい学習指導要領の方向性にも沿ったものと言える。

一方、静岡県教育振興計画においても「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」を基本理念としており、国の教育の方向と同じくしている。

また、菊川市の教育計画においても、「『豊かな学びで歩み続ける人づくり』～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～」を基本理念としており、これもまた国、県で育てたい人間像と考えを一にしており、本校の学校教育目標及び「具体的な3つの姿」はこれらと同方向であると考ええる。

(3) 校章に込めた先人の思いから

堀之内小の校章は、「蛍雪の功」を由来とし、「蛍」と「雪の結晶」をデザイン化したものとのことである。中国の故事からなる「蛍雪の功」という言葉。「苦勞して勉學に励むこと、その成果」という意味であるが、現在の社会状況を鑑みたとき、そこにデザイン化された「蛍」にこそ、着目をしたいと考える。ほのかな明かりだが、自分の力で精いっぱい力で発せられた「あかり」は、暗闇の中でも、遠くからはっきりとその存在がわかる。校章については、100周年誌に、明治43年からの校章の変遷が掲載されている。背景のデザインは、その時々により形が変わってきてはいるが、「3匹の蛍」だけは変わらぬままであり、そこにこそ堀之内小を創り上げてきた先人の方々の思いが込められていると考えた。つまり、「自分の力で光ること」の大切さである。

「蛍雪の功」に込められた「苦学」「耐え忍ぶこと」も『自分磨き』の一つのやり方である。しかし、今の時代、もう一方の磨き方、「楽しみながら得意を伸ばすこと」も大事な『自分磨き』のやり方である。

先人の校章に込めた思いや願いをこの両面と考え、その両面を大事にした「堀小の教育」を創り上げていきたいと考えた。

4 重点目標(学校教育目標実現のために本年度重点とする目標)

【重点目標】

自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる

学校教育目標「『蛍』の子(ひかり かがやく子)」を育成するために、最も大切にしなければならぬことは、児童個々が自分の良さを自覚することだと考えている。自分の良さを自覚は、「自分を愛する」ことにつながり、それは「人を愛し、他に尽くそうとする気持ち」の土台となる。自分自身をしっかりと理解し、小さなことであっても、自己の努力で得た成長を実感し、一つでも自分の中

で「良さ」として思えるものがあれば、それを柱にして人は強く生きていける。
「良さ」の自覚は、自己肯定感を高めることであり、前向きな生き方の原動力にもなる。

本校児童の強みは、「2(1)」にまとめたように、「優しく人なっっこい」点である。しかしその一方で、「自信がなく、耐性や芯の強さ」が課題でもある。そのような児童の実態を鑑みたととき、「3」でのべた「3つの姿」に焦点を当て、学校生活の様々な場面において、「自分から」と「人のために」を意識させ、「みんなと」協働することを大事にし、「3つの姿」の実現に向かって努力させることで、学校教育目標の実現を図っていききたい。そのためには児童が自ら判断したり、努力したり、悩んだり、考えて動いたりする場面や経験を意図的に仕組んでいききたい。そして、物事の結果が良かったときの姿だけでなく、より良い結果や状態を求める過程の、「工夫したり、必死に努力したり、弱い自分と戦ったりする姿」や「小さなことであっても、努力して成し遂げられたこと」などを価値づけること（「勇気づけの言葉」）で、生涯にわたって自己を伸ばし続ける人として育てていききたい。

5 学校教育目標実現のための具体的な取組

学校教育目標実現のため、「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」を重点目標とし、1年間を5つのステージ（「ひかり」）に分け、それぞれの時期のねらい（テーマ）を明確にし、全員が同じテーマを意識して成長できるようにする。

ステージ	テーマ	ねらい・期間
ひかり1	みんなと 創り上げよう	1年後のめざす学級の姿を明らかにし、よりよい集団づくりのために自分ができることを考え、協働する。 【1学期開始～運動会終了】
ひかり2	自分から つくろう	ひかり1の取組を通して見えた「今の自分」を一層成長させるために、3月末の自分の姿を描き、「よりよい自分づくり」に向けて動き始める。 【運動会終了～2学期第2週】
ひかり3	人のために 動こう	相手や集団のために自分ができることを考え、人のために行動することを通して自分を磨く。 【2学期第3週～3学期第2週】
ひかり4	「良さ」と成長を確かめ、次の行動に移そう	1年を振り返り、自分や学級・学年の良さや成長を確かめ、更に成長させるために挑戦する。【3学期第3週～春休み終わり】

組織については、指導部を「まなび育て部」と「こころ育て部」の2部とし、それぞれ次のような取組を行う。「『蛍』の子（ひかり かがやく子）」の3つの姿が多くの場面で見られるよう、そのために必要な4つの資質を意識して育てていく。同時に「日本型教育」の3本柱「知・徳・体」を両部の取組により調和的・一体的に育てていきたい。

また、校内研修は授業研修とし、「授業は学校教育目標の具現化の最も大事な場面」と位置づけ、「まなび育て部」が主体となって研修を深めていく。

(1) 生徒指導部の取組

基本方針 「良さに気付く・良さを築く子を育てよう」

ア 指導の重点

- ・「種まき(良さを表出させる場面づくり)」と「耕し(実践中の価値づけ・支える)」、「実り(結果までの過程の価値付け)」の指導
- ・全校児童一人ひとりを全職員で支える目と行動

イ 具体的取組

- (ア) 全校で良さに気付き、良さを築くことを認め合う「蛍の里掲示板・蛍カード」
- (イ) ステージごとの目標と成果を共有するための「ステージ集会」
- (ウ) 子どもの良さを共有し、支える手立てを確認する「堀小の子どもを語る会」
- (エ) 子どもの社会情動的スキルを育む「静岡県版 SEL」

(2) 育て部の取組

ア まなび育て部の取組

【めざす子ども像】

『自分のために 自分で考えて 決めて 学び続ける子』

- (ア) 自分のために、自分で計画を立てて、自己調整をしながら学び続ける「ひかり学習」
 - 自分の興味・関心に沿って課題を設定し、学習内容・方法・場所を自己選択しながら計画を立てて、探究する「はばたきの時間（総合的な学習の時間）」
 - 自分のために、いつ、何を、どのくらい学習するか計画を立てて取り組む「家庭学習」
- (イ) 自分のよさに気付き、伸ばすために、今の自分やなりたい自分について考える「キャリアパスポート」
- (ウ) 感性を育む読書活動

イ こころ育て部の取組

【めざす子ども像】 『よさを磨き合う子』

- ・集団の中で友達や他学年のよさを見つけ、伝え合う子

- ・よさを磨く土台になる自分のよさを増やす子
- ・他者との関わりの中で、互いを認め合いながら成長していくことができる子

- (ア) 自己有用感と他者貢献の心を育み、よさを見つけ広げる「ペア清掃」
- (イ) 上級生から下級生へ教え、伝えていく『表現活動』、気持ちを揃えて取り組む集団作りを意識した運動会
- (ウ) よりよい学校を目指し、児童の思いや発想を生かした話し合いで進める児童会活動
- (エ) 児童の自由な発想と創意工夫をこらした係や委員会における自主的活動の推進
- (オ) 自分たちの学級をよりよくしていくために、話し合いを通して合意形成・意思決定していく学級会

(3) 教務部・事務部の取組

- ア 育てたい児童の姿、つきたい力の実現のための日課づくり
 - ・朝読書時間の確保
 - ・業間時間の確保
- イ 教員の指導力を育み、個々の良さを生かした「教科担任制」
- ウ 会計システムの管理と支援
- エ 提案資料の電子化(ペーパーレス)

6 学校経営目標(校長としてどのような経営をしていくか)

【学校経営目標】

「堀之内小学校でよかった」と誰もが、実感できる学校づくり
(児童が、保護者・地域が、教職員が)

人間尊重の理念を基本とし、上記学校経営目標を実現できるよう、3つの経営の柱を掲げ、尽力していきます。

(1) 経営の3本柱(上記のような経営をしていくために大切にすること)

ア 安全・安心

(ア) 人権尊重とインクルーシブ教育の精神の浸透

- ・道徳授業の計画的な実施
- ・いじめアンケート・教育相談の実施と早急な対応
- ・セクハラ対策委員会委員との情報共有と対応
- ・交流学級への特別支援学級児童の授業参加に関わる段階的レベルアップ
- ・インクルーシブ教育に関わる情報発信や指示

(イ) 安全教育[生活安全・交通安全・災害安全]の推進

- ・児童による安全活動の推奨(働きかけ)
- ・通学区会における危険箇所の把握と対策
- ・防災講話の実施
- ・訓練後の安全学習の実施

(ウ) 危機管理体制と意識の向上

- ・「危険」に即対応できる実行力ある体制づくり(教頭を核とした指示系統の確立)
- ・実に生きる訓練の実施
- ・施設、通学路の安全点検の実施

- ・効果的な定期的安全点検の実施(点検箇所を固定化を避ける)と即対応
- ・毎日の校内巡視
- ・不祥事根絶に向けた「3ゼロ+2」の確認と意識の紹介、思いの共有

(エ) 教頭、教務、生徒指導、養護教諭を Hub (ハブ) とした情報共有体制の強化

- ・教務会、運営委員会での情報共有と対応の指示、確認
- ・毎日の教頭、教務主任との情報交換と対応の指示、確認
- ・養護教諭による、毎日の報告と対応の確認
- ・教務主任を中心とした、教育課程の計画的運営と変更への対応
- ・生徒指導主任を中心とした、生徒指導案件への早期対応

(オ) 相談体制の強化と地域家庭への確かな情報発信

- ・アンケートや教育相談の実施(児童、保護者)
- ・確実な家庭への連絡
- ・HPによる学校教育活動の紹介・発信
- ・教育之会(P T A) 会長及び組織との確実に丁寧な情報共有
- ・地域人材を講師として招聘

イ 活力と快適さ

(ア) 「三方良し」の精神の浸透(気配りのすすめ)

- ・「自分良し」「相手良し」「周り(みんな)良し」を多くの場面で紹介
- ・職員から児童への伝達機会の促進
(朝の会、帰りの会で。行事において。児童会活動において。等々)

(イ) 教職員とその家族の幸せを大事にした対応と意識づくり

- ・家事を優先した年休等を安心して取得できる雰囲気づくりとフォロー体制の確立
- ・職員と家族の誕生日における定時退庁の促進
- ・「堀小リフレッシュ休暇」の実施

(ウ) チャレンジできる風土づくり

- ・児童のアイデアを引き出し、実現する児童会活動・特別活動の充実
- ・目標やねらいを明確にし、それを達成するためにより効果的な手だてを、教職員の持ち味を発揮したアイデアで創り出す、「チャレンジできる教師集団」の確立

(エ) 職員の将来の願いとキャリアステージを考慮した人的配置

- ・人事における希望調査と、本人の思いや願いを大事にした配置
- ・人事面談におけるキャリア目標の共有

(オ) 「学舎」での取組による教職員の雑務の軽減

- ・学校の環境に関わる支援依頼
- ・授業や行事に関わる支援や講師依頼

(カ) 適切で計画的な予算の運用

- ・経営の3本柱と学校教育目標実現に向けて積極的な予算運用
- ・執行状況の確認と指示

ウ 教育の質の向上

(ア) 学習指導要領に沿った指導と評価の一体化の推進

- ・個の学びと評価(見取り)に焦点を当てた校内研修
- ・個の考えを表現する(書く、描くなど)ことを位置づけた授業展開

(イ) 自ら判断したり、努力したり、悩んだり、考えて動いたりする場面づくりや経験の重視

- ・授業における個の時間を確保した授業展開
- ・行事や委員会活動、係活動などにおける場面づくり

(ウ) やらされる家庭学習から自分からやる家庭学習への転換

- ・授業と家庭学習のリンク(授業のための家庭学習、家庭学習を生かした授業づくり)
- ・各自のキャリアプランの実現のための家庭学習

(エ) 上級生から下級生へ教える(伝える)場面の創出

- ・下級生による上級生の授業参観(上級生のプライドを高める)
- ・家庭学習について上級生から下級生への助言場面づくり
- ・行事や委員会活動などにおける交流場面づくり

(オ) 研究・研修の場の設定と職場への還元

- ・「1日校内出張」の実施
- ・県内外の研究校への視察研修の実施
- ・学舎の授業参観交流の実施(児童の次のステージ[中学校]の授業参観)

(2) 経営指標(経営状況の達成度を測る指針)

学校経営目標の達成度を次の指標で判断したい。

【指標】

- ・自分の「良いところ」が言える児童 90%
- ・1年前よりも自分が成長している・力が付いていると言える児童 90%
- ・「働きやすい・働きがいがある」と答える職員 90%
- ・学校は子供の個性を大事にし、育ててくれていると感じる保護者 90%

7 グランドデザイン(別紙)